

音楽がつなぐ人と人との交流

コスモスレディース代表 棚野 久子さん（桑野町）

コスモスレディースは、桑野町に「音楽の花を咲かそう」と、生涯学習の一環として結成したサークルです。コンサートや施設訪問、イベント参加など、地域に密着した活動を続けてきた私たちに、思いがけない話が舞い込んできました。同じ自治体名の阿南町（長野県）との交流20周年記念の訪問団としての大役を仰せつかったのです。

11月9日早朝、長野県の最南端に位置する阿南町に向かうため、市の関係者と私たち12人のメンバーは、バスに楽器や音響機器を積み込み出発しました。バスに揺られること7時間余、まちのあちこちに「阿南」の文字が目につくようになり、地元に戻ってきたような錯覚に陥りながら、阿南文化会館に到着。阿南町の関係者の温かい出迎えを受け、別便で来られていた岩浅市長とも合流し、さっそくリハーサルを行いました。真っ赤に燃える紅葉や夕日に映えあかね色に輝く山々に力をもら

い、翌日の舞台に備えました。

その夜、佐々木町長をはじめ、阿南町の有志の方々と懇親会が行われました。「阿南市と阿南町のそれぞれにある阿南第二中学校を卒業した2人が結婚し、阿南市の住民になっている」とことや、阿南町の「仲人子」という風習で話が弾みました。珍しい鯉料理や郷土料理に舌鼓を打ち、うたげの最後は全員で阿波踊りや新野盆踊り（三味線や太鼓は使わず音頭取りに合わせ三日三晩踊りあかす）で交流を深めました。

翌朝8時30分、大勢の方が待つ「第26回親と子がつどう感性と創造のフェスティバル」の会場に到着した私たちは、幕開きとともに創作民話「つるの恩返し（プロジェクトで物語を映し出し、歌・セリフ・音楽・効果音で演出）」を披露しました。物語の情景と阿南町の山深い景色が重なり、演奏しながら熱いものが込み上げてきました。舞台では、阿南第二中学校、阿南高校、新野小学校の皆さんに

よる合唱や演奏、ダンス、オペレッタなども披露され、阿南市と同名校に親しみを感じながらフェスティバルを堪能。フィナーレは、厳しい特訓を重ねてきたコスモスレディースオリジナルの阿波踊りを披露。岩浅市長が踊り込むと、舞台と観客席が一体となり、会場は阿波踊り一色に。観客も総立ちになり、「阿南」という名の笑顔の花が咲き乱れました。

「つるの恩返し」ではすすり泣く声も聞かれたとか、阿波踊りでは初めて観客がホールを埋め尽くしたとか、これもひとえに関係者の皆さんの心配りがあつてのことだと感謝しています。

同じ地名をもつ人とのつながり、優しさ、親しみ、温もりに触れ、音楽の持つ不思議な力を感じました。この交流の輪がさらに広がりが、きずなが深まることを願いつつ、心の触れ合いを大切に、これからも自分たちにできる音楽活動を続けていきたい。達成感に包まれながら帰路に着きました。

